

学生記者の

多摩ぶらり散歩

6

回野宿

中央大学の周辺には、さまざまな史跡をはじめ、豊かな自然やお楽しみスポットが数多くある。でも、意外と気づいていなかったり、知っていてもなかなか行くチャンスがなくて、いつも素通りという人が多いのではないだろうか。そこで学生記者がおすすめスポットを紹介する。題して『学生記者の多摩ぶらり散歩』。はたして、何やら新発見がありますでしょうか。

八王子、多摩、立川に挟まれた日野市日野。JR中央線が通り、交通至便な日野市に住む中大生は少なくない。私もその一人だ。JR日野駅からは、立川駅で多摩モノレールに乗り換え中大へ。また多摩モノレール甲州街道駅からも直接、中大へ行くことができる。自転車なら30分ほどで通える距離だ。

そんな中央大学の足元に位置する日野市を知りたくなって、JR日野駅から多摩モノレール甲州街道駅方面へとまっすぐに伸びる「川崎街道」をぶらり散歩した。

素朴な民家風の日野駅舎 歩きやすい整備された歩道

スタート地点であるJR日野駅は、1日の乗客が約3万人と、日野市民にとって通勤・通学の拠点駅だ。駅舎の概観は、所々が木造で昔の民家

を彷彿させるような、素朴な味があるつくりになっている。これは駅周辺が、かつて「多摩の稲蔵」と称された日野のなかでもとくに「八丁田穂」と呼ばれる稲作地帯だったことから、周りの田園風景と調和するようにデザインされたのだという。



日野駅

JR日野

駅から甲州街道駅方面へまっすぐ続く川崎街道は、かつては「日野宿」と呼ばれていた甲州道中の宿場だった。慶弔10年（1605年）に宿場として取り立てられ、元禄年間（1688～1703）に最も栄えた。1キロほどの宿場は、決して大きくはないが、歴史を感じるには十分だ。

ファストフード店やお洒落な美容院などが建ち並ぶ日野駅周辺をちよつと離れると、街並みの様相が変わる。道沿いには、「電気屋さん」と呼びたくなるような昔ながらの佇まいの電気店や、江戸情緒を残す下町にも似た古い建物が軒を並べる。古い街並みでも、歩道の整備がしっかりしているので、歩きやすい。散歩コースには持つてこいで、お年寄りにも安心して歩ける。

600年以上の歴史持つ八坂神社 本殿に天然理心流の「剣術額」

日野宿時代に思いを馳せながら、駅から100メートルほど歩いてくると、隙間無く並んでいた建物が途切れ、石造りの鳥居が目に入ってくる。「八坂神社」だ。京都の八坂神社は祇園祭りでお名だが、こんな身近にも「八坂神社」はあった。

神社の由来を調べてみると、昔、この近くの土淵というところで多摩川の洪水があり、その後、淵に怪しい光が数夜に渡って見えたという。老人がその光を拾い上げると、金色に輝く牛頭天王の神像であった。その像を祀ったのが八坂神社だという。

応永5年(1398)から600年以上の歴史を持ち、本殿は寛政18年(1800年)頃に建てられた。いまは、精巧な彫刻が組み込まれた江戸

日野図書館



八坂神社

時代後期を代表する神社建築として日野市指定重要文化財になっている。その本殿には、新撰組局長の近藤勇や六番隊組長だった井上源三郎らが奉納

した天然理心流の「剣術額」がある。さらに鳥居と本殿に掲げられている篇額は、新撰組の後援者だった佐藤彦五郎のたつての願いで、明治政府総裁として有名な有栖川宮二品熾仁親王が書いたものだという。神社ひとつとっても次から次へと偉人の名前がでてくるから面白い。さらに少し歩くと、日野図書館があった。宿場町だった時代の問屋跡に建てられ、木と瓦でできた当時の町並みを感じ取れるぬくもりのある外観だ。隣には日野宿交流館という新撰組に関連した展示品を見ることが出来る場所もある。

都内唯一の本陣「日野宿本陣」

近藤勇らが剣術学んだ道場も

図書館のほぼ向い側に目を転じると、宿場町時代の名残である「日野宿本陣」が圧倒的な存在感で、ほとんど当時のままで残っている。「本陣」とは、参勤交代などの際に大名や幕府役人らが宿泊した旅館だ。

日野宿本陣は、都内で唯一現存する本陣で、甲州道中で現存する三つの本陣(ほかに「小原宿本陣(神奈川県相模湖町)」、「下花咲宿本陣(山梨県大月市)」)のうちの一つである。本陣は嘉永2年(1849)の大火で主家を焼失し、その後、元治元年(1864)までに10年かけて再建された。また、この本陣には、近藤勇や土方歳三、沖田総司、井上源三郎などが稽古に励んだ「佐藤道場」があった。本陣入り口正面の駐車場が、かつては

庭だった

ところで、

その庭が

道場にな

っていた

という。

入館料

200円

(大人)

を払って

本陣の建

物内に入

ると、中

は自由に

見学でき、

職員の方が日野本陣について説明してくれる。「ここに副長の土方歳三が座り、供のものがあそこらへんを走り回っていて…」などという話を聞いてみると、つい新撰組の隊士らが今もここに居るような錯覚に捕らわれる。また、当時の建築、美しい庭も見所だ。

このようにJR日野駅から甲州街道駅に続く川崎街道は、まるで歴史のテーマパークであるかのようだ。中央大学のすぐ近くにありながら、普段は何気なく通り過ぎてしまいがちだが、是非とも一度はゆっくり歩いて、史跡に触れてみてはいかがだろうか。

(学生記者 堀滝登II文学部2年)



日野宿本陣建物